



## 1. はじめに

今年度も最後の月になり、1日には卒業式・修了式が行われ、本科生51名・専攻科生8名が本校を後にしました。式が終わり体育館を退場していく卒業生の表情には、喜びと新生活への不安が混ざっていたように思いました。卒業生の皆さんに幸あれ、と祈りつつ見送りました。在校生の皆さんも、立派に卒業していった先輩の後に続けてください。



さて、生徒の皆さんにとって本年度はどのような1年間だったでしょうか。楽しく充実した高校生活を送ることができた人もいれば、思うようにならず悩み多き日々を過ごした人もいるでしょう。努力したのに報われない、と暗い気持ちになっている人も多いかも知れません。確かに、自分では頑張っているつもりでも、それが結果として現れてこないことがあると思います。しかし、努力や頑張りは、将来の皆さんにとって必ず良い影響を与えてくれるはずで

す。普段私が皆さんと接する中でよく思うのは、「すぐ諦めてしまわずに、粘って欲しい。」ということです。少し考えて分からないと「無理…」やってみせずに「できません…」K2の授業で「無理」発言を禁止した後、しばらくして私が「それは無理…」と言ってしまって、笑われたことを思い出しました。もちろん「無理」なことはあります。「100メートルを11秒台で走る」のは、私にはいくら努力しても無理です。覚えておいて欲しいのは、私たち教員は、皆さんに「無理」なことをやりなさい、とは言わない、ということです。皆さんが少し努力して面倒くさがらずに頑張れば、クリアできることを私たちは指導しているつもりです。テニスの松岡修造プロは「100回叩くと壊れる壁があったとする。でもみんな何回叩けば壊れるかわからないから、99回まで来ても途中であきらめてしまう」と言っています。

【地球の名言 <http://earth-words.org/archives/2746>】  
また、最近よく耳にする「努力しないことは裏切らない」という言葉は正しいと思います。努力なくして成功はあり得ません。できることから、諦めずに少しずつ取り組んでいきましょう。



## 2. 「ヘイトスピーチ」

前号で「人権」について取り上げ、「自分の思ったことを自由に口に出すこと」は人権のうちのひとつ、ということを紹介しました。そこで今月号では「ヘイトスピーチ」について触れてみます。

ヘイトスピーチとは、「特定の人種や宗教などへの偏った考えから、はげしい言葉で憎しみを表現すること」です。【山陰中央新報 2013(H25)年10月19日 何でもロースクール】 街頭で拡声器を使い、「〇〇人は日本から出て行け!」「△△民族を地球から叩き出せ!」などと叫ぶ行為(街宣活動)をテレビニュースなどで見たことがある人もいるのではないのでしょうか。また、このような過激な活動は海外のメディアも注目し、報道しています。

さて、このヘイトスピーチに関連して、京都地方裁判所が昨年10月、ひとつの判決を出しました。京都市内のある学校に対して、拡声器を使ってヘイトスピーチを行った団体に対し、京都地方裁判所は「人種差別撤廃条約が禁止する『人種差別に該当し違法』と認定し(…中略…)1226万円の支払いと、学校周辺での街宣活動の禁止を命じました。【msn産経ニュース 2013.10.7 <http://sankei.jp/msn.com/affairs/news/131007/tr113100713160002-n1.htm>】裁判に負けた団体は、判決を不服として大阪高等裁判所に控訴しています。「表現の自由」があるではないか、との主張です。

【裏へ続きます】

私たちは自分の考えを公園などで自由に発言することができます。拡声器を使うこともできますが、音量には配慮が必要ですし、発言の内容も、他人の名誉や信用を傷つけたりするもの（「名誉毀損」）は許されません。口頭による発言だけではなく、文書や画像における「表現の自由」も大変難しい問題で、私ももっと勉強したいと思います。このような問題に興味がある人は、法律の専門書や、インターネットで研究してみてください。

最後に、フランスの哲学者ヴォルテールの言葉を紹介しておきます。

「私はあなたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る。」



### 3. 「そのくらいのことで怒らないで…」

私はこれまで何度か皆さんからこのようなことを言われたことがあります。私は教員ですから、「よくない」ことをしている人には、指導や注意をしたり、叱ったりします。こう言った人は、「そのくらいのことで注意されるのは嫌だ、厳しすぎる」とか、「そのくらい何がいけないのか」と思ったのでしょうか。では、「そのくらい」とは、「どのくらい」のことなのかを考えてみましょう。

授業中の教室をイメージしてください。次の行為（態度）は「そのくらい、いい」ことだと思いますか。

1. 携帯電話を使う。
2. 何かを食べる・飲む・嘔む。
3. 席を勝手に替る。
4. 勝手に立ち歩く。
5. 後ろを向いて座る。
6. 横を向いて座る。
7. 私語をする。
8. 漫画を読む。
9. シャツを出している。
10. 居眠りをする。
11. 声を出して大きなあくびをする。



私の判断では、全て「授業中にはよくない」ことです。

判断基準は、「ルール違反かどうか」、「生徒の皆さんの学力を伸ばすかどうか」のふたつです。一人ひとりの「感覚」や「価値観」は違うので、「ルール」は必要です。そして、授業は皆さんの学力を伸ばすためにあるものです。その目的に反する行為は許されません。他の人の邪魔になったり、迷惑をかけるなどは論外です。

授業中に「これくらいのことで…」と思うことがあれば、このふたつの基準を思い出してください。それでも納得が行かなければ、質問に来てください。



### 4. おわりに

今年度のこの「たより」も最終号になりました。最後に皆さんにひとつ、お願いがあります。言葉を大事にしましょう。まず、挨拶から始めましょう。毎朝、生徒指導部の先生方を始め全教員が交代で昇降口に立って挨拶をしました。また、こちらから挨拶をするように心がけました。最近は元気のよい挨拶のできる人が増え、嬉しく思います（無視されることもあります）。「進路だより 第10号」で、職場での「ホウレンソウ」は「社会人としての基本中の基本」と紹介されていたのを覚えていますか。「ホウレンソウ」の前に、まず挨拶から大切にしていきましょう。そしていつも意識して欲しいのは、TPO（time 時・place 場所・オケイジョンoccasion場合）に応じた言葉が使えているか、ということです。相手に失礼のないように、礼儀正しく話して欲しいと思います。礼儀正しくするとは、相手を尊重するということです。相手を尊重できなければ、相手から尊重されることもないでしょう。

この「たより」には日ごろ感じていることや、ふと思ったことなどを書いてきましたが、読みにくい記事も多かったのではないかと反省しています。同時に、自分自身の勉強不足を痛感しました。また、生徒の皆さんや先生方のおかげで、毎月発行することができました。少しでも何かを感じてもらえれば幸いです。本当にどうもありがとうございました。



（文責：古田千博）